

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32641

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A））

研究期間：2019～2023

課題番号：19KK0325

研究課題名（和文）ラテンアメリカにおける先住民自治：質的比較分析による制度運用促進条件の解明

研究課題名（英文）Indigenous Autonomy in Latin America

研究代表者

舟木 律子（Funaki, Ritsuko）

中央大学・商学部・教授

研究者番号：20580054

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,300,000円

渡航期間：12ヶ月

研究成果の概要（和文）：ラテンアメリカ地域では1990年代以降「先住民自治」を認める法制化の動きが進展した。先住民の権利を認める国際条約に批准し、憲法改正あるいは新憲法を制定することによって、同地域の大半の国において明示的に先住民の自治権を認める制度化が進められた。しかし、実際の制度運用段階においては、認められた権利が蔑ろにされる状況が各地で観察されてきた。本研究では、ラテンアメリカ諸国（メキシコ、ニカラグア、パナマ、コロンビア、エクアドル、ペルー、ボリビア、チリ、アルゼンチン）およびカナダの研究者・先住民組織指導者と共同で制度化後の実態に関する調査研究をおこない、成果を書籍とオンラインセミナーの形で公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義として、ラテンアメリカ諸国の先住民自治の制度化状況に関して、最重要となる「自治権」と、同等に重要な意味を有する「土地権」の「制度と運用の乖離」状況について、質的データを用いた分析により、客観的指標をもって状況の深刻度を可視化することに成功した。共同研究の主要な過程において、当該地域の研究者・先住民組織指導者・国際NGO（International Work Group for Indigenous Affairs）・国際機関（米州機構人権委員会）と連携して調査報告活動を進めることができ、調査結果の共有過程では直接的な社会還元効果が実感された。

研究成果の概要（英文）：Since the 1990s, Latin America has seen a legislative movement towards recognizing "indigenous autonomy." By ratifying international treaties that acknowledge the rights of indigenous peoples and by amending or enacting new constitutions, most countries in the region have explicitly institutionalized the recognition of indigenous autonomy. However, in practice, the implementation of these recognized rights has often been neglected. This study, conducted in collaboration with researchers and indigenous organization leaders from Latin American countries (Mexico, Nicaragua, Panama, Colombia, Ecuador, Peru, Bolivia, Chile, Argentina) and Canada, examines the realities following this institutionalization. The findings were published in the form of a book and an online seminars.

研究分野：比較政治学

キーワード：ラテンアメリカ 先住民 自治 質的比較研究 土地権

1. 研究開始当初の背景

先住民自治に関連する「制度と運用の乖離」について、最も早い時期に公に報告したのが国連先住民の権利に関する特別報告者スタベンハーゲン(2006)である。同報告書は、各国が批准した先住民の権利に関する国際法(ILO169号条約)や、憲法改正を経て新たに盛り込まれた一連の先住民の権利が、実際には侵害され続けている状況に対して警鐘を鳴らした。とりわけ、この時期は国際資源価格が高騰しつつあった時期とも重なり、各国政府が積極的に資源開発を進める戦略をとったため、先住民自治の基盤となるはずの伝統的な居住領域と、そこに存在する天然資源、環境の権利が侵害される状況が頻発し、政府や開発企業対先住民組織との間で暴力を伴う激しい衝突となるケースが相次いだ。こうした状況に対しては、実態解明を主目的とする国際機関および国際NGOや、先住民研究に携わる学者の研究によって責任追及や政策提言がなされている。こうした研究の傾向としては、法学的アプローチによる人権侵害に関する批判的検討や、人類学または社会学的アプローチからのミクロレベルでの事例研究、歴史学的アプローチからの単一国家の事例研究等があり、これらによって個別事例の詳細な内容を確認することが可能である。しかし、先住民内部および統治する側にある近代国家の多様性によって、これまで地域全体の状況について体系的比較を行った研究は乏しかった。先住民をめぐる状況の理解には質的かつ歴史的な情報の分析が不可欠となるため、方法的制約によって同時に検討できる事例数が少数に限られてきたためである。

2. 研究の目的

本研究の目的は大きく2点ある。第1に、海外共同研究者となるゴンサレス氏(カナダ・ヨーク大学)との国際共同研究「米州先住民領域における自治・自治政府」の研究目的、とりわけ1点目と重なる。すなわち、先住民自治の制度化後の次の3点の課題:1点目は、制度と運用の間の乖離の存在について、2点目は先住民の伝統的制度に内在する問題の顕在化(先住民女性の権利、特に土地に関連する集団の権利と個人の権利の相克)について、3点目が制度の枠外での先住民自治の実践の拡大である。第2の目的として、共同研究では各研究者が対象の国、あるいはさらにその中での特定の先住民集団の詳細な事例研究を行うのに対して、本研究では、先住民自治を制度化したラ米全10カ国の体系的比較分析を行い、従来困難であった体系的な比較のための参照基準を提供する。

3. 研究の方法

研究期間前半は、先住民自治の制度化に関して土地の権利に焦点を絞り、制度化の現状とその運用実態について、ILO-169号条約委員会、米州機構人権委員会、国連特別報告者(先住民の権利)の3機関の公文書を収集し、質的に内容分析を行なった。その結果に基づき、土地権の制度と運用の乖離状態の深刻度を指標化し、論文に次の書籍の一部として出版された。同書は、先住民自治の実態に関するラテンアメリカおよびカナダを含む調査研究を集めたものである。この国際共同研究プロジェクトのコーディネータの一人として、研究協力者らの研究論文の草稿8本の査読を担当、2020年11月には、2度のオンライン研究会を実施した。初回は出版予定の研究成果について情報提供および意見交換をする目的で、米州人権委員会副委員長アントニア・ウレホラ氏、先住民問題国際NGO(IWGIA)と、報告者を含む国際共同研究コーディネータ5名、研究協力者7名を招いてのオンライン研究会を実施し、貴重なフィードバックを得られた。また2回目は、同じ共同研究の共同研究者・研究協力者計27名で、オンライン研究会を実施した。研究会ではそれぞれの研究者の研究成果についての概要報告と、それらの研究をまとめた書籍の序章の草稿に関しての意見交換があり、これを元に序章の修正作業を進め、2021年4月に出版することができた。

研究期間後半は、オンラインセミナー・研究会の実施、国際学会での研究発表、国際ワークショップを通じて、研究成果を広く発信し、本課題に関して研究・実務・日々の生活で深く関わるオーディエンスからのフィードバックを得て、今後さらなる国際共同研究の方向性を確認する作業を行なった。

4. 研究成果

本研究では、先住民自治の制度化の実態について、土地権に焦点を当て、国際機関の公文書から質的データを収集し、ラテンアメリカ10カ国の制度・運用乖離度を明らかにし、スペイン語版および英語版の書籍の一章として出版された。また、その後域内の地理的多様性を踏まえ、中米地域に対象地域を絞って取り組んだ現状分析においても、同様の方法で各国の乖離度指標を作成し、その結果を論文にまとめ、現在国際ジャーナルへ投稿後の審査待ちである。

本国際共同研究の最大の成果としては、中南米カリブ地域および北米も含む先住民およびアフロ系住民の権利実現を研究対象とする多様な関係者(先住民アフロ系住民組織指導者、研究者、国際機関実務家、国際NGO実務家)との研究協力ネットワークを構築できたこと、2度の国際ワークショップ(2022年4月コスタリカ開催、2023年11月コロンビア開催)を通じて、とりわけ中米カリブ地域を中心とする先住民組織指導者同士の情報交換のための有機的なネットワークを構築できたことである。先住民・アフロ系住民の居住エリアにおいては、土地権をめぐる競合関係にある反社会組織や開発企業との緊張状態から、時に死傷者を出す事態に発展する状況も観察される。研究対象地域へのフィールド調査は安全上のリスクから容易ではない中で、本研究を通して、先住民アフロ系住民組織とのつながりを構築できたことの意義は大きい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Funaki, Ritsuko
2. 発表標題 Territorio con titulo de propiedad colectiva en Centro America: Analisis comparativo de los estados de titulacion de tierra para los pueblos indigenas y afrodescendientes
3. 学会等名 The Canadian Association for Latin American and the Caribbean Studies (CALACS) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Funaki, Ritsuko
2. 発表標題 La brecha de implementacion de los derechos de los pueblos indigenas sobre las tierras y territorios en America Latina
3. 学会等名 Latin American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Funaki, Ritsuko
2. 発表標題 Measuring the Implementation Gap of Land rights for Indigenous and Afro-descendant Peoples in Central America: Comparative analysis of four key aspects
3. 学会等名 The Canadian Political Science Association Congress 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Gonzalez, M, Burguete Cal y Mayor, A., Mariman, J., Ortiz-T, P y Funaki, R.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Universidad Politecnica Salesiana	5. 総ページ数 692
3. 書名 Autonomias y Autogobierno en la America Divers	

1. 著者名 Gonzalez, M, Funaki, R. Burguete Cal y Mayor, A., Mariman, J. and Ortiz-T, P	4. 発行年 2023年
2. 出版社 University of Calgary Press	5. 総ページ数 711
3. 書名 Indigenous Territorial Autonomy and Self-Government in the Diverse Americas	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Autonomias y Autogobierno en la America Diversa http://autonomiasyautogobierno.com/ Indigenous Autonomy in the Americas https://www.ingentaconnect.com/content/sil/impact/2020/00002020/00000009/art00007?crawler=true&mimetype=application/pdf</p>

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
<p>ゴンサレス ミゲル (Gonzalez Miguel)</p>	<p>ヨーク大学・Department of Social Science・Assistant Professor</p>	

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
<p>ブルゲテカルイマヨール アラセリ (Burguete Cal y Mayor Araceri)</p>	<p>メキシコ社会人類学研究高等研究センター・Unidad Regional Sureste・Profesora-Investigadora</p>	

6. 研究組織（つづき）

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
マリマン ホセ (Mariman Jose)		チリにおける政治社会経済権、マイノリティの権利 専門家
オルティス パブロ (Ortiz T Pablo)	サレシアナ工業大学・Director	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 Encuentro Centroamericano y del Caribe Sobre Autonomias Indigenas y Afrodescendientes: Intercambios sobre Emancipacion y Conocimientos	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Autonomias y Autogobierno en la America Diversa, Presentacion del libro, Seccion I, Constrictum Post Multicultural	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Autonomias y Autogobierno en la America Diversa, Presentacion del libro Seccion II, Grietas, Recuperar lo perdido y reconstruir	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Autonomias y Autogobierno en la America Diversa, Autorias indigenas sobre la autonomia, dialogos con el proceso Constituyente de Chile	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Dialogo sobre el Proyecto Editorial: Autonomias y Autogobierno en Territorios Indigenas en la America Diversa	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Encuentro de Intercambio: Autonomias y Autogobierno en Territorios Indigenas en la America Diversa	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Seminario Regional Un Mar Compartido	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
カナダ	ヨーク大学		